

## RPA を活用した報告書未読対策への取り組み

未読ゼロを目指して

◎山本 美奈<sup>1)</sup>、川元 博之<sup>1)</sup>、高橋 徹<sup>1)</sup>、源 順一<sup>2)</sup>  
地方独立行政法人 下関市立市民病院検査部<sup>1)</sup>、地方独立行政法人 下関市立市民病院事務部<sup>2)</sup>

病理診断報告書の確認忘れによる医療事故がしばしば問題になっている。

当院では病理システム Dr.HELPER（ドクターヘルパー、ひろぎんITソリューションズ株式会社）で報告書が作成され、報告書が電子カルテ EGMAINGX（富士通）で閲覧可能になった時点で依頼医に閲覧可能メールが自動送信されている。また、当院の未読対策として、未読報告書のある依頼医、担当医（主治医）には、1から2ヶ月おきに、未読リストを紙で配布し、既読するよう促していた。しかしながら、システムの関係上、依頼医、担当医同時に自動送信することができず、自動送信は依頼医のみ、担当医には自動メールが送信されず、未読リストを紙で配布するのみであった。また、未読リストの作成、配布は少なからず業務の負担になっていたため、当院が導入した業務効率支援 RPA（Robotic Process Automation）ソフト WinActor（ウィンアクター、NTT データビリングサービス）を活用し、担当医への自動メール送信、未読のある依頼医および担当医への催促メールを定期的に自動発信することができるよ

うになり、効果を上げている。

今回、未読対策の変遷と導入効果、運用の実状と課題について報告する。

下関市立市民病院検査部 083-231-4111（内）3021